



レヅ主催、「今」の AI を語るイベント『THE AI 2018』に登壇
「コージェントラボの AI 研究とビジネスの接合」をテーマに講演
日本マイクロソフト講演でも「kaidoku」紹介

株式会社 Cogent Labs（本社：東京都渋谷区、代表取締役：飯沼純、エリック ホワイトウェイ、以下「コージェントラボ」）は、レヅ主催で開催された『THE AI 2018』に、登壇いたしました。当イベントでは、AI アーキテクトのデイビット・マルキン, Ph.D. と ダビド・クルナポ, Ph.D.が、2018 年 1 月 31 日（水）「コージェントラボの AI 研究とビジネスの接合」というテーマで講演を行い、14 ヶ国から AI のリサーチャーとエンジニアがいかにして集結し、どのような研究からサービス生み出しているのかを発表いたしました。

また同日、「MS AI Platform ビジネスで AI 活用するヒント」というテーマにて行われた日本マイクロソフト株式会社の講演では、新たに Azure 上で稼働する文書検索システム「kaidoku(カイドク)」が紹介されました。



【講演内容抜粋】

「コージェントラボの AI 研究とビジネスの接合」(株式会社 Cogent Labs 講演)

<デイビット・マルキン, Ph.D.>

コージェントラボの魅力は、それぞれが AI にまつわる知識・経験を持っているだけでなく、
各専門領域における、業界の課題を理解している人材が集まっていること

代表取締役の飯沼は、セールスフォース・ドットコム の 13 番目の社員として、SaaS 業界に精通しており、同じく代表取締役のエリックは、モルガン・スタンレーMUFU 証券にて 16 年間、トレーディング業務を牽引してきました。技術責任者のミン・スク・ソンはサムスン電子に 17 年間勤務し、スマートテレビやスマートデジタルディスプレイなどの商用サービスの開発をリードしてきました。チーム全体としてもそれぞれが AI にまつわる経験をしているだけでなく、それぞれの専門領域における専門知識を持っており、その業界の課題を理解しています。

才能がある人材がいれば世界中どこにでも会いに行く

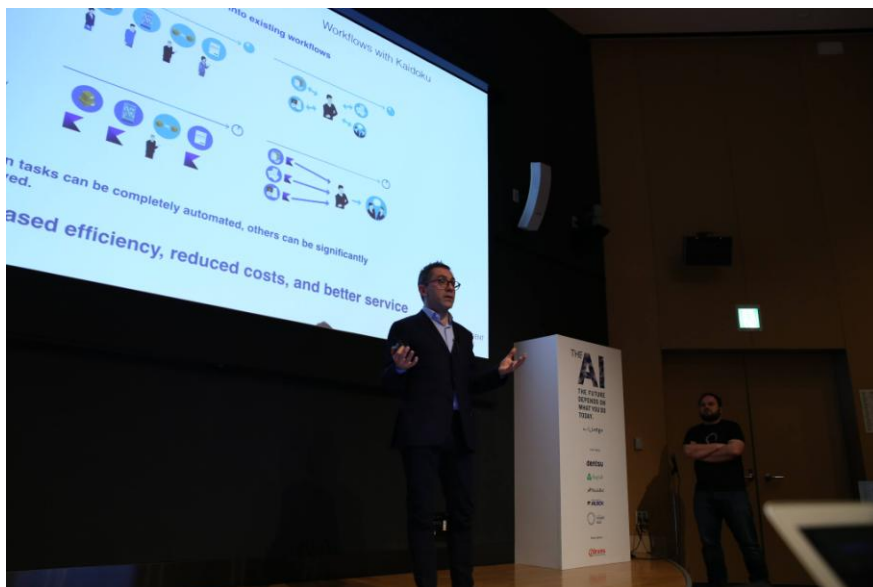
コージェントラボは様々な研究者を世界中から採用しています。高い AI 技術を持った人材は非常に稀なので、才能がある方がいれば世界のどこにでも会いに行きます。そのようにして、東京に移住してもらえらるベストな人材を獲得しています。

誰にでも簡単に使え、日本語でも 99%以上の精度で手書き文字をデータ化する「Tegaki(テガキ)」

「Tegaki」は AI エンジニアでなくても、誰でも使えるサービスです。また言語として複雑で難しい日本語でも、独自の AI 技術を利用することで、人間の認識レベルと同じ 99%以上の精度で手書き文字を認識することができるようになりました。またシステムが継続学習を行うので、導入当初は 90%ほどの精度で認識されたとしても、その後の学習により精度は改善していきます。

文書の分類・検索だけでなく、可視化もできる「kaidoku(カイドク)」

さまざまな業務に非構造化データが多く存在し、情報の検索に大半の時間を割いている業務もあります。「kaidoku」は様々な形式のテキスト文書を分類し、検索することが可能なので、多部署間での情報の連携や、情報検索時間の短縮が可能となります。また「kaidoku」では、情報の可視化も可能です。ある情報がどのクラスターに分類され、その他の情報との関係度や、似た情報がどの程度の量存在するのかといった内容が一目でわかるような検索結果が表示されます。この情報の可視化は「kaidoku」の大きな特徴です。



コージェントラボは今後、システムが自動的に企業を運営できる未来を目指していく

そのために各 AI システムを統合し活用していくための研究を行っていく

AI は今後、人間の脳のように、それぞれのシステムが相互に影響しながら統合され、より全体を理解していくようになります。コージェントラボは、システムが企業運営に役立つようにしていくにはどうしたらよいのかを考えています。コージェントラボのシステムで例えると、「Tegaki」で読み込んだ書類データを「kaidoku」に取り込み、膨大な書類データを可視化したり、大和証券と共に開発している「リアルタイム出来高予測モデル」と「kaidoku」で読み込んだニュースデータを掛け

合わせて、より精度の高い株価予測を行うことが可能となります。このようなそれぞれの AI システムを統合的に活用するためには、まだ研究が必要であり、多くの課題があり、それを解決できるのがコージョントラボの強みです。

<ダビド・クルナボ, Ph.D.>

AI のイノベーションが遅い原因は、研究者とソフトウェアエンジニアの 2 つの縦割り組織

両者のつなぎとして機械学習のエンジニアを機能させ、全員が一丸となることが、スピーディな開発には必要

一般的に文化的な違いが、研究者とソフトウェアエンジニアの間にあります。AI においても同様の文化的違いが両者の間にあるため、機械学習のエンジニアがつなぎとして存在することが、スピーディなサービス開発において必要です。研究者ほどではないが専門知識があり、ソフトウェアエンジニアとしての力もある機械学習のエンジニアが、再現性のある設計をソフトウェアエンジニアと共に行い、製品化後のモデル改善も継続的に機械学習のエンジニアが行います。そうすることで、研究者は新しいアイデアを生み出すことに特化することができます。この組織体系が AI 製品のスピーディな開発やサービスの品質維持・改善に必要です。



やるべきリストとやるべきでないリスト

Do:

- Mostly hire people who understand software engineering (most of ML is easy !)
- Give tools to scientists to iterate ideas around product
- Reward maintainability, stability, complexity reduction on ML
- Consider model training, pipelines as production critical as customer-facing website

Don't:

- Let scientists write large codebases without strong engineer team
- Let scientists define metrics that don't align with product's needs
- Build parallel prototypes re-creating production's models to iterate
- Systematically value accuracy improvement over maintainability/scalability concerns
- Do model optimization outside production contexts

■『THE AI 2018』について

今ビジネスでAIがどう使えるのか？どう使われているのか？ということを中心に、登壇企業のAIのビジネス活用の事例について講演を行い、より具体的に使えるAIの知識をお伝えするイベント。初開催である『THE AI 2018』では、ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社/ソニー株式会社、株式会社リクルートテクノロジーズ、日本マイクロソフト株式会社、株式会社サイバーエージェント、株式会社電通、株式会社ブレインパッド、株式会社NTTドコモ、株式会社Cogent Labs、総合警備保障株式会社が登壇するほか、ゲストとして為末大氏やスプツニ子！氏も登壇しました。

主催：株式会社レッジ

URL：<https://ledge.ai/the-ai-2018/>

■Cogent Labs について

コージェントラボは、人工知能を活用して人々の働き方や生活の未来を形作ることに取り組み、実生活の課題を解決する、使いやすく直感的なソリューションを提供します。時系列データを活用した予測、情報抽出、自然言語と音声処理、強化学習など、多分野にまたがる専門性を活用することで、最新の研究内容を実ビジネスに応用します。